

2017年度 研究センター事業報告書

研究センター名	生存学研究センター
研究センター長名	立岩 真也

I. 研究成果の概要 (公開項目)

本欄には、研究センターの実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、項目立てなどをおこなないできるだけわかりやすく記述してください。

基盤テーマとする「障老病異」をめぐる教育・研究活動として①学術研究事業（公開研究会・国際ワークショップの開催等）、②教育活動・社会連携事業（セミナー企画、当事者参画型活動等）、③研究活動と若手研究者育成との連携（研究プロジェクト、研究支援等）、④研究成果発信事業（紀要刊行、電子ジャーナル発刊等）をおこなった。

① 学術研究事業

公開研究会・ワークショップ・シンポジウムを積極的に開催した（主催・共催等として12回開催）。国際的な研究活動として、障害学国際セミナー(East Asia Disability Studies Forum) 2017<於：韓国・順天郷大学、韓国・中国・台湾の障害当事者・研究者が参画>、国際ワークショップ「Challenges of Illness Narratives」、中国残障政策多学際検討会(Conference on Multi-Disciplinary Research of Disability) <於：中国、武漢大学>での招聘講演等を催した。これらの企画は、研究成果国際発信プログラムのほか、AMED（希少難治性脳・脊髄疾患の歩行障害に対する生体電位駆動型下肢装着型補助ロボット（HAL-HN01）を用いた新たな治療実用化のための多施設共同医師主導治験の実施研究）や学内機関（人間科学研究所、国際言語文化研究所、コリア研究センター等）との連携活動としても実施された。

② 教育活動・社会連携事業

立命館大学ライスボールセミナー（2017年5月）、立命館土曜講座「障害／社会」（2018年2月）、映画上映を通じた教育・研究活動を開催した。加えて、ライスボールセミナーにあわせて、生協ブックセンターふらっと（衣笠キャンパス・存心館）にて生存学ブックフェア（2017年5月）を開催した。大阪いばらきキャンパス地域連携課ならびに管財課と連携してセミナーハウス改修をすすめ、研究機関としてのバリアフリー化促進にも取り組んだ。社会連携活動として、アジアの当事者を招聘した公開研究会「アジアの精神障害者の自助活動の実践とシステム」、京都府教育委員会・京都市教育委員会後援による映画上映・講演会をおこなった。さらに国際的な社会連携として、シンガポールにおいて、障害者権利条約パラレルレポートワークショップを開催した（シンガポール障害者協会と共催、2018年3月）。

③ 研究活動と若手研究者育成との連携

若手研究者と大学院生のチーム参加を必須とする研究プロジェクト制度において、「精神保健・医療と社会」研究会、現代社会エスノグラフィ研究会、フェミニズム研究会の3プロジェクトに研究支援をおこなった。若手研究者研究力強化型「国際的研究活動」支援を継続し、韓国、台湾、中国、アメリカに関する研究活動4件に研究支援をおこなった。第3回「生存学奨励賞」を実施し、若手研究者への研究発展を奨励した。

④ 研究成果発信事業

紀要『立命館生存学研究』第1号を刊行した。多言語（日英韓）でのfacebook（和文225本）、twitter（和文185本）、メールマガジン（英文6本）を更新・発行した。研究成果の蓄積・公開については、情報保障機能を持ちあわせた学術データベース arsvi.com (<http://www.arsvi.com/>) 上にてアーカイヴィングを継続しておこなった。

○意義と重要性

以上のような広範な国内外の活動によって、本研究センターの非常に多くの学術的研究成果は学術的コミュニティ内のみならず、社会的にも広く共有されている。たとえば、社会的に大きな注目を浴びている、旧優生保護法に関する研究成果や、国際的に大きな課題となっている障害者権利条約に関する取り組みはその一部である。<生存>をキーワードする取り組みの有用性が再確認されつつあり、次年度以降の学内を含む、国内外でのいっそう活発な教育・研究事業展開につながる実践的な社会貢献をおこなうことができた。

II. 拠点構成員の一覧（公開項目）

本欄には、2018年3月31日時点で各拠点にて所属が確認されている本学教員や若手研究者・非常勤講師・客員研究員等の構成員を全て記載してください。区分が重複する場合は二重に記入せず、役割が上にあるものから優先し全て記載してください。また、若手研究者の条件に当てはまる場合は、必ず若手研究者欄に記載をしてください。

※若手研究者とは、立命館大学に在籍する以下の職位の者と定義します。

①専門研究員・研究員、②補助研究員・RA、③学振特別研究員（PD・RPD）、④博士後期課程院生・一貫制博士課程3回生以上に在籍する院生

役割	氏名	所属	職位	
センター長	立岩 真也	先端総合学術研究科	教授	
運営委員	上野 千鶴子	衣笠総合研究機構	研究顧問	
	大谷 いづみ	社会学研究科	教授	
	小川 さやか	先端総合学術研究科	准教授	
	岸 政彦	先端総合学術研究科	教授	
	栗原 彬	衣笠総合研究機構	研究顧問	
	立岩義之	先端総合学術研究科	教授	
	齋藤 龍一郎	衣笠総合研究機構	客員教授	
	桜井 政成	政策科学部	教授	
	サトウ タツヤ	総合心理学部	教授	
	鎮目 真人	産業社会学部	教授	
	千葉 雅也	先端総合学術研究科	准教授	
	Paul Dumouchel	先端総合学術研究科	教授	
	富永 京子	産業社会学部	准教授	
	長瀬 修	衣笠総合研究機構	教授	
	中村 正	応用人間科学研究科	教授	
	西 成彦	先端総合学術研究科	教授	
	林 達雄	衣笠総合研究機構	研究顧問	
	松原 洋子	先端総合学術研究科	教授	
	美馬 達哉	先端総合学術研究科	教授	
	村本 邦子	応用人間科学研究科	教授	
	望月 茂徳	映像研究科	准教授	
	安田 裕子	総合心理学部	准教授	
やまだ ようこ	衣笠総合研究機構	教授		
渡辺 克典	衣笠総合研究機構	准教授		
学内教員 (専任教員、研究系教員等)	金 友子	国際関係学部	准教授	
学内の若手研究者	専門研究員・研究員	櫻井 悟史	衣笠総合研究機構	専門研究員
		川端 美季	衣笠総合研究機構	専門研究員
	補助研究員・リサーチアシスタント			
	学振特別研究員 (PD・RPD)	小西 真理子	日本学術振興会特別研究員 PD (受入大学：国際基督教大学)	特別研究員 PD

博士後期課程院生・一貫制博士課程 3 回生以上在籍院生	伊東 香純	先端総合学術研究科	院生
	今里 基	先端総合学術研究科	院生
	桐原 尚之	先端総合学術研究科	院生
	高 雅郁	先端総合学術研究科	院生
	駒澤 真由美	先端総合学術研究科	院生
	シン ジュヒョン	先端総合学術研究科	院生
	高木 美歩	先端総合学術研究科	院生
	谷口 俊恵	先端総合学術研究科	院生
	寺前 晏治	先端総合学術研究科	院生
	中村 亮太	先端総合学術研究科	院生
	西田 美紀	先端総合学術研究科	院生
	橋本 雄太	先端総合学術研究科	院生
	三輪 佳子	先端総合学術研究科	院生
	山口 真紀	先端総合学術研究科	院生
	高橋 慎一	文学部	非常勤講師
その他の学内者 (非常勤講師・研究生・研修生等・博士前期課程院生等)	南 玉瓊	国際関係研究科	院生
	李 定恩	国際関係研究科	院生
客員協力研究員	青木 慎太郎	公益社団法人京都府視覚障害者協会	理事
	青木 千帆子	静岡県立大学グローバル・スタディーズ研究センター 客員共同研究員	客員共同研究員
	安部 彰	龍谷大学	非常勤講師
	天田 城介	中央大学文学部	教授
	有馬 斉	横浜市立大学国際総合科学部	准教授
	有吉 玲子	松島医院	看護師長
	アルベルトウス=トーマス・モリ	立命館大学生存学研究センター	客員研究員
	飯田 奈美子	立命館大学生存学研究センター	客員研究員
	一宮 茂子	立命館大学生存学研究センター	客員研究員
	打浪 文子	淑徳大学短期大学部こども学科	特任准教授
	浦田 悠	大阪大学全学教育推進機構教育学習支援部	特任講師
	太田 啓子	独立行政法人国立病院機構 大阪医療センター附属看護学校	非常勤講師
	大谷 通高	大学共同利用法人 人間文化研究機構 総合地球環境学研究所	技術補佐員
	大貫 菜穂	京都造形芸術大学	非常勤講師
	大野 光明	滋賀県立大学人間文化学部人間関係学科	准教授
岡本 晃明	京都新聞社報道部	部長代理	

尾上 浩二	特定非営利活動法人・DPI 日本 会議	副議長
於保 真理	神奈川工科大学	非常勤講師
郭 貞蘭	白石（ペクソク）大学校	非常勤講師
葛城 貞三	特定非営利活動法人ALSしが ネット	理事長
加藤 有希子	埼玉大学基盤教育研究センター	准教授
角崎 洋平	日本学術振興会特別研究員(受 入大学：佛教大学)	特別研究員
蒲生 諒太	関西大学人間健康学部	非常勤講師
河口 尚子	名古屋市立大学	非常勤講師
川口 有美子	(有)ケアサポートモモ	代表取締役
川田 薫	株式会社サーベイリサーチセン ター	-
北村 健太郎	立命館大学生命科学部・薬学部	非常勤講師
金 政玉	明石市福祉部福祉総務課	障害者施策担当課 長
高 薇	Wuhan East-Lake Institute for Social	Advancement: Research Fellow
小林 勇人	日本福祉大学	准教授
栄 セツコ	桃山学院大学	教授
櫻井 浩子	東京薬科大学薬学部生命・医療 倫理学研究室	准教授
定藤 邦子	立命館大学生存学研究センター	客員研究員
佐藤 静	大阪樟蔭女子大学学芸学部ライ フプランニング学科	准教授
白波瀬 達也	関西学院大学社会学部	准教授
孫 美幸	大阪大学大学院人間科学研究科 附属未来共創センター	講師
田中 慶子	広島修道大学人文学部	助教
田中 真美	京都栄養医療専門学校	非常勤講師
田邊 健太郎	立命館大学	非常勤講師
谷村 ひとみ	社会福祉法人えのき会	看護師
玉井 隆	特定非営利活動法人 アフリカ 日本協議会	理事
張 万洪	Wuhan University School of Law	Professor
利光 恵子	としまつ薬局経営/ 女性のため の街かど相談室 ここ・からサ ロン	共同代表
土橋 圭子	愛知県立春日台特別支援学校	教諭
仲尾 謙二	京都府職員	職員

中倉 智徳	立命館大学大学院先端総合学術 研究科	研究指導助手
永田 貴聖	国立民族学博物館先端人類科学 研究部	機関研究員
永山 博美	独立行政法人労働者健康安全機 構 神戸労災病院	看護師
新山 智基	神戸国際大学ブルーリ潰瘍問題 支援プロジェクト (Project SCOBU)	幹事
西沢 いづみ	京都中央看護保健大学校	講師
能勢 桂介	長野保健医療大学	非常勤講師
萩原 三義	相生鍼灸院長、NPO 法人オレン ジコモンズ理事	院長、理事
箱田 徹	天理大学人間学部	准教授
橋口 昌治	特定非営利活動法人日本自立生 活センター自立支援事業所	職員
長谷川 唯	立命館大学生存学研究センター	客員研究員
番匠 健一	同志社大学<奄美・琉球・沖縄 >研究センター	研究員
樋澤 吉彦	名古屋市立大学大学院人間文化 研究科	准教授
藤原 良太	NPO 法人わかみやクラブ 中野 区立放課後デイサービスセンタ ーみずいろ	児童指導員
堀江 有里	日本基督教団なか伝道所	主任担任教師 (牧 師)
牧 昌子	京都府国民健康保険審査会	委員
増田 英明	一般社団法人日本ALS協会	副会長
増田 洋介	一般社団法人愛知県社会福祉士 会	事務局職員
松波 めぐみ	大阪市立大学	非常勤講師
三野 宏治	東京福祉大学社会福祉学部	准教授
村上 潔	神戸市外国語大学	非常勤講師
安原 荘一	全国「精神病」者集団	運営委員
矢野 亮	日本福祉大学福祉経営学部	助教
山田 裕一	特定非営利活動法人凸凹ライフ デザイン/ 熊本県発達障害当事 者会 Little bit	事業部長/顧問ソシ ヤルワーカー
山本 晋輔	株式会社ゆう建築設計事務所	社員
山本 由美子	大阪府立大学 人間社会システ ム科学研究科	講師 (テニユア・ トラック)
梁 陽日	同志社大学	嘱託講師

	横田 陽子	立命館大学生存学研究センター	客員研究員
	吉田 幸恵	東京大学医科学研究所公共政策研究分野	特任研究員
	頼尊 恒信	NPO 法人 CIL だんない	事務局長
	ワフユディ (小宅) 理沙	東大阪大学短期大学部	専任講師
その他の学外者 (他大学教員・若手研究者等)	井上 彰	東京大学大学院総合文化研究科	講師
	浜田 明範	関西大学社会学部	准教授
	原 めぐみ	和歌山工業高等専門学校総合教育家	助教
	堀田 義太郎	東京理科大学理工学部	講師
	山口 健一	福山市立大学都市経営学部	准教授
	山本 崇記	静岡大学人文社会科学部	准教授
研究所・センター構成員	計 126 名	(うち学内の若手研究者 計 17 名)	

Ⅲ. 研究業績 (公開項目)

本欄には、「Ⅱ. 拠点構成員の一覧」に記載した研究者の研究業績のうち、拠点に関わる研究業績を全て記載してください。(2018年3月31日時点)

1. 著書							
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
1	立岩 真也	リハビリテーション/批判——多田富雄/上田敏	編著	2017年7月	Kyoto Books	立岩真也編	-
2	立岩 真也	生死の語り行い・2—私の良い死を見つめる本	単著	2017年8月	Kyoto Books	立岩真也編	-
3	立岩 真也	『障害/社会』準備の終わりから3—連載・137	単著	2018年9月	現代思想	-	-
4	立岩 真也	社会科学する——星加良司『障害とは何か』の3	単著	2018年2月	現代思想	-	-
5	立岩 真也・岸 政彦	事実への信仰 デイティールで現実へ介入する	共著	2018年2月	現代思想	荻上千キ	-
6	立岩 真也	発刊にあたって	単著	2018年3月	『立命館生存学研』1	永田 貴聖 他	3-12
7	立岩 真也	労働の場の編成等：星加良司『涉外とは何か』の4—連載・143	単著	2018年3月	現代思想	-	215-229
8	立岩 真也	重訪、なにそれ？—重度の肢体不自由者に関する講義	単著	2018年3月	NPO法人ゆに『「当事者をつくる重度訪問介護研修」事業報告書	-	-
9	立岩 真也	おわりに	単著	2018年3月	NPO法人ゆに『「当事者をつくる重度訪問介護研修」事業報告書	-	-
10	安田 裕子	教育実践の質的研究方法	単著	2017年10月	ナカニシヤ出版	田中俊也(編)	175-195

		(田中俊也(編), 教育の方法と技術—学びを育てる教室の心理学)					
11	安田 裕子	子どもの司法面接とケア (指宿信(編), 犯罪被害者と刑事司法)	単著	2017年9月	岩波書店	指宿信(編)	192-209
12	安田 裕子	TEMでひろがる社会実装—ライフの充実を支援する	共著	2017年8月	誠信書房	サトウタツヤ	
13	安田 裕子	生みだされる分岐点—変容と維持をとらえる道具立て (安田裕子・サトウタツヤ(編), TEMでひろがる社会実装—ライフの充実を支援する)	単著	2017年8月	誠信書房	安田裕子・サトウタツヤ(編)	11-25
14	村本 邦子	私の中のわたしたち: 解離性同一性障害を生きるのびて	単著	2017年9月	国書刊行会	オルガ・トゥルヒーヨ	329-345
15	村本 邦子	父の逸脱	単著	2017年9月	新泉社	セリーヌ・ラファエル	252-265
16	中村 正	犯罪被害者と刑事司法	単著	2017年9月	シリーズ刑事司法を考える第4巻 岩波書店	指宿信他(編)	254-275
17	富永 京子	社会学の力—最重要概念・論題集	単著	2017年6月	有斐閣	友枝敏雄・浜日出夫・山田真茂留(編)	128-131
18	富永 京子	社会運動と若者—日常と出来事を往還する政治	単著	2017年3月	ナカニシヤ出版	-	-
19	鎮目 真人	転げ落ちない社会 困窮と孤独をふせぐ制度戦略	単著	2017年10月	勁草書房	宮本太郎編(著)	255-285
20	サトウタツヤ	TEMでひろがる社会実装—ライフの充実を支援する	単著	2017年8月	誠信書房	安田裕子	-
21	サトウタツヤ	Imagination in Adults and the Aging Person: Possible Futures and Actual Past. In Tania Zittoun and Vlad Glaveanu (Eds.) Handbook of Imagination and Culture. Chapter 9.	単著	2017年6月	Oxford University Press	Tania Zittoun	-
22	小泉 義之	あたらしい狂気の歴史—精神病理の哲学	単著	2018年1月	青土社	-	285
23	やまだようこ	前言語期のコミュニケーション 秦野悦子・高橋登(編) 言語発達とその支援	単著	2017年	ミネルヴァ書房	秦野悦子・高橋登(編)	63-89

24	やまだよう こ	エリクソンの人生と生成 継承性 岡本祐子（編） 世代継承性研究の展望	単著	2018年	ナカニシヤ出版	岡本祐子（編）	-
25	やまだよう こ	イメージ、三項関係、物 語的自己、実験科学、野 外科学、ライフ、他界 観、ダント、パーソナ ル・ドキュメント、ビジ ュアル・ナラティブ、フ ィールド心理学、ライフ サイクル、モデル、モデ ル構成的フィールド心理 学、川喜田二郎 能智正 博ほか（編）	単著	2018年	新曜社	川喜田二郎 能智正 博ほか（編）	-
26	Paul Dumouchel	Living with Robots	共著	2017年	Harvard University Press,	Luisa Damiano	pp. 262
27	小西 真理 子	『共依存の倫理』	単著	2017年9月	晃洋書房	-	-
28	孫 美幸	境界に生きる 暮らしの なかの多文化共生	単著	2017年10月	解放出版社	-	-
29	一宮 茂子	ケアの実践とは何か—— 現象学からの質的研究ア プローチ	共著	2017年9月	ナカニシヤ出版	西村 ユミ・榊原 哲 也 編	45-72
30	一宮 茂子	障害のある人の母親とい う経験——障害のある人 の（母）親を対象にした アンケート分析から：親 族の言葉ひとつで肯定に も否定にも	共著	2017年9月	監修：公益財団法人京都 市身体障害者父母の会連 合会 協力：近畿2府4県肢体 不自由児者父母の会連合 会	上野千鶴子編 谷村 ひとみ・鮫島輝美・ 畑野相子・宇治和 子・橋野佳子・三輪 佳子・萩原三義・窪 田好恵・梅下節瑠・ 中西京子・茶園敏 美・藤井美恵子・桶 川華代・栄セツコ	35-38
31	能勢 桂介	未完の多文化共生ブラン ——煩悶するローカル・ ガバナンス『変容する国 際移住のリアリティ—— 「編入モード」の社会 学』	共著	2017年8月	ハーベスト	代表編集渡戸一郎	160-181
32	ワフユディ （小宅） 理沙	「社会的養護の理念と基 本的考え方」	共著	2017年10月	『社会的養護・社会的養 護内容』 翔雲社	監修 小宅理沙	31-35
33	ワフユディ （小宅） 理沙	「社会的養護利用手続 き」	共著	2017年10月	『社会的養護・社会的養 護内容』 翔雲社	監修 小宅理沙	49-52
34	ワフユディ （小宅）	「家庭養護」	共著	2017年10月	『社会的養護・社会的養 護内容』	監修 小宅理沙	53-74

	理沙				翔雲社		
35	ワフユディ (小宅) 理沙	「施設養護」	共著	2017年10月	『社会的養護・社会的養護内容』 翔雲社	監修 小宅理沙	137-150
36	ワフユディ (小宅) 理沙	「性的虐待における事例分析」	共著	2017年10月	『相談援助・保育相談支援』 翔雲社	監修 小宅理沙	101-104
37	ワフユディ (小宅) 理沙	「児童の健全育成」	共著	2017年4月	『NIE 児童家庭福祉演習』 大学教育出版	編者 松井圭三・今井慶宗	104-108
38	ワフユディ (小宅) 理沙	「児童家庭福祉の概要」	共著	2017年2月	『子ども家庭福祉』 青山社	監修 小宅理沙 編者 谷口卓・石井貴子	3
39	ワフユディ (小宅) 理沙	「児童家庭福祉の制度」	共著	2017年2月	『子ども家庭福祉』 青山社	監修 小宅理沙 編者 谷口卓・石井貴子	19-25
40	ワフユディ (小宅) 理沙	「母子保健サービスの現状」	共著	2017年2月	『子ども家庭福祉』 青山社	監修 小宅理沙 編者 谷口卓・石井貴子 監修 小宅理沙 編者 谷口卓・石井貴子	27-48
41	ワフユディ (小宅) 理沙	「児童虐待/ドメスティック・バイオレンスの現状と今後の課題」	共著	2017年2月	『子ども家庭福祉』 青山社	監修 小宅理沙 編者 谷口卓・石井貴子	51-63
42	ワフユディ (小宅) 理沙	「社会的養護」	共著	2017年2月	『子ども家庭福祉』 青山社	監修 小宅理沙 編者 谷口卓・石井貴子	65-74
43	ワフユディ (小宅) 理沙	「障害の定義と現状」	共著	2017年2月	『子ども家庭福祉』 青山社	監修 小宅理沙 編者 谷口卓・石井貴子	75-87
44	ワフユディ (小宅) 理沙	「非行問題」	共著	2017年2月	『子ども家庭福祉』 青山社	監修 小宅理沙 編者 谷口卓・石井貴子	95-102
45	伊東 香純	『心理社会的障害』の意味—障害問題の解消の仕方に関する差異	単著	2017年8月	病院・地域精神医学	-	49-51

2. 論文

No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者名	担当頁数	査読有無
1	立岩 真也	高野岳志/以前 生の現代のために・20—連載・132	単著	2017年4月	『現代思想』(2017 巻4号)	-	-	
2	立岩 真也	『精神病院体制の終わり』書評へのリプライ	単著	2017年5月	解放社会学研究	-	110-118	

3	立岩 真也	高野岳志／以前 生の現代のために・2 1——連載・133	単著	2017年5月	『現代思想』(2017巻5号)	-	8-21	
4	立岩 真也	高野岳志・1 生の現代のために・22— —連載・134	単著	2017年6月	『現代思想』(2017巻6号)	-	6-28	
5	立岩 真也	福島あき江 生の現代のために・23——連 載・135	単著	2017年7月	『現代思想』(2017巻7号)	-	8-19	
6	立岩 真也	福嶋あき江／虹の会生の現代のために・ 24——連載・136	単著	2017年8月	『病院・地域精神医学』(60 巻1号)	-	24-27	
7	立岩 真也	『障害／社会』準備の終わりから3—— 連載・137	単著	2017年9月	『現代思想』(2017巻9号)	-	-	
8	立岩 真也	どこから分け入るか—— 連載・138	単著	2017年10 月	『現代思想』(45巻)	-	-	
9	立岩 真也	不如意なのに／だから 語ること——連載・139	単著	2017年11 月	『現代思想』(45巻)	-	-	
10	立岩 真也	斉藤貴男『健太さんは なぜ死んだか—— 警官たちの「正義」 と障害者の命	単著	2017年11 月	『リハビリテーション』 (2017巻11号)	-	-	
11	立岩 真也	星加良司『障害とは 何か』の1——連載・ 140	単著	2017年12 月	『現代思想』(45巻)	-	-	
12	立岩 真也	星加良司『障害とは 何か』の2——連 載・141	単著	2018年1月	『現代思想』(46巻)	-	-	
13	長瀬 修	相模原障害者殺傷事 件:海外からの声と障 害者権利条約	単著	2017年4月	『ACADEMIA』、No161	-	48-50	
14	長瀬 修	国際的障害者組織と SDGs —国際障害同盟 の取り組み	単著	2017年6月	『ノーマライゼーション』第 37巻第6号	-	24-25	
15	長瀬 修	台湾(中華民国)の 障害者権利条約審査	単著	2017年6月	『福祉労働』第155号	-	100-101	
16	長瀬 修	障害者権利委員会— その構成と役割	単著	2017年9月	『すべての人の社会』、37-6 (通巻447号)、	-	4-5	
17	長瀬 修	台湾の障害者権利条 約審査—パラレルレ ポートとワークショ ップ	単著	2017年9月	『福祉労働』第156号	-	108-109	
18	長瀬 修	台湾の建設的対話と 総括所見障害者権利	単著	2017年12 月	『福祉労働』第157号	-	110-111	

		条約」						
19	櫻井 浩子	薬局での相談経験に関する薬剤師アンケート調査から考察したか、かりつけ薬剤師・薬局に求められる機能	共著	2017年11月	日本薬剤師会、日本薬剤師会雑誌 (69巻11号)	能城裕希・赤羽優燿・櫻井 浩子・益山光一	25-28	
20	やまだ ようこ	ビジュアル・ナラティブー時間概念を問う	単著	2017年	こころの科学とエピステモロジー 創刊準備号	-	9-15	
21	やまだ ようこ	ビジュアル・ナラティブとは何か	単著	2018年	N:ナラティブとケア 9号	-	2-10	
22	やまだ ようこ	糖尿病患者のビジュアル・ナラティブ	共著	2018年	N:ナラティブとケア 9号	山田千積	11-20	
23	やまだ ようこ	透析患者のビジュアル・ナラティブ	共著	2018年	N:ナラティブとケア 9号	菅波澄治	21-29	
24	やまだ ようこ	しなやかな復活力(書評)	単著	2018年	質的心理学研究17	-	-	
25	やまだ ようこ	喪失と巡礼ー宮澤賢治と村上春樹のナラティブ	単著	2018年	身心変容技法7号	-	-	
26	村本 邦子	周辺からの記憶17: 2014年福島のこと	単著	2017年12月	対人援助学マガジン	-	155-171	
27	村本 邦子	周辺からの記憶16: 2014年度 岩手	単著	2017年9月	対人援助学マガジン	-	177-189	
28	村本 邦子	周辺からの記憶15: 2014年度、宮城・岩手・民話との出会い	単著	2017年6月	対人援助学マガジン	-	144-155	
29	松原 洋子	「『優生法の系譜』論』批判の検討」	単著	2017年6月	生物学史研究	-	64-68	
30	松原 洋子	大学図書館のアクセシビリティープリント・ディスアビリティの学生の支援を中心に	単著	2018年	館灯	-	-	
31	中村 正	子どもを虐待する父親のグループワーク	単著	2017年10月	精神療法	-	71-75	
32	鎮目 真人	(書評)金成垣『福祉国家の日韓比較ー「後発国」における雇用保障・社会保障』	単著	2017年5月	福祉社会学研究	-	193-197	
33	サトウ タツヤ	TEA (複線径路・等至性アプローチ)から見たキャリアの捉え方	単著	2017年9月	対人援助学マガジン	川本静香	105-111	

34	サトウ タツヤ	マミー・クラーク 心理学史の中の女性 たち第4回	単著	2017年7月	心理学ワールド	-	-	
35	サトウ タツヤ	ローレッタ・ベンダ ー 心理学史の中 の女性たち第3回	単著	2017年4月	心理学ワールド	-	-	
36	小泉義之	傷痕と再生	単著	2017年	青土社、現代思想	-	188-194	
37	小泉義之	国家に抗する社会に おける鰥夫と子供	単著	2017年	以文社、異貌の同時代	渡辺公三・石田智 恵・富田敬大編	419-434	
38	小泉義之	フーコーの精神分析 批判——『性の歴史 I』に即して	単著	2017年	平凡社、〈ポスト68年〉と私 たち	市田良彦・王寺賢 太編著	276-296	
39	Paul Dumouchel	L' aide sociale punitive	単著	2017年10 月	Etudes 4242	-	15-21	有
40	Paul Dumouchel	Robots: Technical Individuals and Systems	単著	2017年	NatureCulture	-	76-89	有
41	Paul Dumouchel	The Practices of Feeling with the World: Towards and Anthropology of Affect, Senses and Materiality - Introduction	共著	2018年1月	Japanese Review of Cultural Anthropology	A. De Antoni	91-98	有
42	Paul Dumouchel	Of Objects and Affect: Artificial Empathy, Pure Sociality, and Affective Coordination	単著	2018年1月	Japanes fe Review of Cultural Anthropology	-	99-113	有
43	Paul Dumouchel	Acting Together in Dis-Harmony. Cooperating to Conflict and Cooperation in Conflict	単著	2017年	Studi di Sociologia	-	303-318	有
44	Paul Dumouchel	Violence, Religion and the Sacred	単著	2018年	Does Religion Cause Violence? New York: Bloomsbury	S. Cowdell, C. Fleming, J. Hodge & C. Osborn, eds	167-172	
45	Paul Dumouchel	Catastrophe	単著	2017年	Dictionnaire Encyclopédique de la justice pénale international Boulogne-Billancourt : Berger Levrault	O. Beauvallet, ed.	139-141	

46	Paul Dumouchel	Violence	単著	2017年	Dictionnaire Encyclopédique de la justice pénale internationale Boulogne-Billancourt : Berger Levrault	O. Beauvallet, ed.	997-999	
47	Paul Dumouchel	Le choix du traître	単著	2017年	Le Moment Gorz Lormont : Le Bord de l' eau	C. Fourel & A. Caillé, eds.	63 - 72	
48	Paul Dumouchel	An Essay on Hominization	単著	2017年	The Palgrave Handbook on Mimetic Theory and Religion New York: Palgrave Macmillan	J. Alison & W. Palaver, eds	13-20	
49	Paul Dumouchel	The Barren Sacrifice	単著	2017年	The Palgrave Handbook on Mimetic Theory and Religion New York: Palgrave Macmillan	J. Alison & W. Palaver, eds	279 - 286	
50	Paul Dumouchel	A Theory of Everything? A Methodological Tale	単著	2017年	The Palgrave Handbook on Mimetic Theory and Religion New York: Palgrave Macmillan	J. Alison & W. Palaver, eds	463-470	
51	安田 裕子	法と心理学会第17回大会 ワークショップ 多専門・多職種連携による司法面接の展開—通達からの1年を振り返り、今後の展開を考える	単著	2017年10月	法と心理	羽淵由子・赤嶺亜紀・田中晶子・仲真紀子・三原恵・主田英之	47-54	
52	安田 裕子	体外受精適応となった女性の不妊経験への意味づけ過程—複線径路等至性モデリングを用いて (特集 リプロダクションの経験と保健医療)	単著	2017年10月	保健医療社会学論集	-	12-22	
53	角崎 洋平	社会保障システムにおける食料保障—フードバンク事業の社会政策的側面での意義と可能性についての考察	単著	2017年6月	貧困研究	-	-	
54	飯田 美奈子	対人援助のコミュニティ通訳者の役割考	単著	2017年6月	立命館 人間科学研究 第36号	-	17-31	有

		察 一通訳の公正介入基 準の提案—						
55	太田 啓子	調査活動『みんなが 行きたくなるカフェ ってどんなカフ ェ?』—インクルー シブリサーチの観点 からの検討—	共著	2017年	同志社大学社会学会『評論・ 社会科学』123	森口弘美・井口高 志・松本理沙	83-99	
56	中倉 智徳	第二章 微小な痕跡 に残る社会—ガブ リエル・タルドと筆 跡の社会学	単著	2017年5月	『異貌の同時代—人類・ 学・の外へ』以文社	渡辺公三・富田敬 大・石田智恵 編	49-71	
57	孫 美幸	包括的な平和教育の 視点に基づく多文化 共生教育の可能性	単著	2017年12 月	開発教育協会、開発教育64 号	-	13-22	
58	浦田 悠	人生の意味の心理学 から生きがい研究へ の架橋にむけて	単著	2017年	生きがい研究, 23	-	4-27	
59	能勢 桂介	子どもといっしょに 大人も育つ—よき 市民の条件	単著	2017年5月	『長野の子どもの白書2016』 長野の子どもの白書	-	20-21	
60	ワフユディ (小宅) 理沙	「多分化の子ども・ 子育て支援に必要な こと」	共著	2017年11 月	地域福祉サイエンス 第4号	中典子	117-123	
61	梁 陽日	在日コリアン教育運 動の現代史—戦後大 阪の公立学校を中心 に—	単著	2017年7月	立命館大学大学院博士学位論 文	-	-	
62	岸 政彦	沖縄の語り方を変え る	単著	2017年4月	社会学評論	-	-	
63	伊東 香純	障害者運動と消費者 運動—精神障害者の 世界組織の発足過程 から	単著	2018年2月	『立命館人間科学研究』	-	63-74	
64	伊東 香純	対立したままでの連 帯—精神障害者のグ ローバルな草の根運 動の組織構造	単著	2018年3月	『Core Ethics』Vol. 14	-	1-10	
65	今里 基	非当事者として聞き 取り調査すること— ある日韓ダブルのア イデンティティの事 例から	単著	2018年3月	『立命館生存学研究』	-	53-61	
66	桐原 尚之	書評・精神病院体制 の終わり—認知症の	単著	2017年5月 31日	解放社会学研究	-	105-118	

		時代に						
67	高木 美歩	「自閉症」研究における認知の社会的多義性	単著	2018年3月	『Core Ethics』Vol. 14	-	111-121	

3. 研究発表等

No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名
1	立岩 真也	"Achieving Independent Lives for People with ALS Connected to Artificial Respirators through the Process of Accepting Care from Non-Family Members"	2017年12月	The 28th International Symposium on ALS/MND	谷川 唯・増田 英明・西田 美紀・桐原 尚之・川口 有美子
2	立岩 真也	ベーシックインカムと人間の生存	2017年4月8日	労働と暮らしのセミナー スタジオシチズン 大阪	
3	立岩 真也	精神病院体制の終わり、へ	2017年7月21日	全国精神障害者地域生活支援協議会 結成20周年記念大会 横浜市	
4	立岩 真也	精神障害/精神医療を巡る現代史そして現在	2017年10月23日	精神障害者地域生活支援のための韓・日精神障害政策シンポジウム 韓国	
5	立岩 真也	日本で経験から	2017年10月24日	韓国 ALS の人たち関係者たちとの懇談会 韓国	
6	立岩 真也	近代は続く、そして障害は近代だから正当なものとして存在する差別であり、同時に近代を保つ部品である、が	2017年10月25日	The 8 th East Asia Disability Study Forum (EDSF)2017 順天郷大学 韓国	
7	立岩 真也	研究と協力の方向を展望する	2017年10月26日	The 8 th East Asia Disability Study Forum (EDSF)2017 順天郷大学 韓国	
8	立岩 真也	PA (Personal Assistance): Acquiring Public Expense and Seeking Self Management	2017年12月	Conference on Multi-Disciplinary Research of Disability Policy in China, 於: China (中国)・Wuhan 武漢	-
9	長瀬 修 高 雅郁	障害者の権利条約の実施過程研究会:台湾と知的障害者①	2017年5月3日	鶴見中央ケアプラザ	-
10	長瀬 修 高 雅郁	障害者の権利条約の実施過程研究会:台湾と知的障害者②	2017年8月5日	横浜市鶴見区社会福祉協議会	-
11	長瀬 修	ナチスドイツの障害者安楽死計画と障害者差別解消—障害者権利条約の視点から	2017年9月	第9回奈良県「差別と人権」研修	-

12	長瀬 修 高雅郁	Becoming a Self-Advocate: a Case in Taiwan	2017年10月 24-27日	2017 the 8 th East Asia Disability Studies Forum (EDSF)	-
13	長瀬 修	What is independent living based on the CRDP?	2017年11月	2017 International Conference and Workshop on independent living and personal Assistance: Self-Determination and User Control (台湾 台北)	-
14	長瀬 修	Building Self-Advocacy Capacity for People with Intellectual and Developmental Disabilities in the Asia/Pacific Region	2017年11月	2017 IASSIDD 4th Asia Pacific Region Congress (バンコク)	-
15	長瀬 修	Sagamihara Tragedy and Challenges of “Community-living”	2017年11月	2017 IASSIDD 4th Asia Pacific Region Congress (バンコク)	-
16	長瀬 修	CRPD and Bhutan for the promotion of disability policy and rights in Butan	2017年11月	Bhutan CRPD Promotion Workshop (ブータン)	-
17	長瀬 修	Sagamihara Killing and Challenges of Community-Living (相模原殺傷事件と地域生活の課題)	2017年12月	中国障害者政策学際セミナー (中国 武漢)	-
18	長瀬 修	CRPD Implementation and Civil Society (障害者権利条約実施と市民社会)	2017年12月	障害者権利条約実施ワークショップ (ミャンマー ヤンゴン)	-
19	長瀬 修	中華民国(台湾)における、障害者権利条約の審査について—2020年日本初回審査への教訓という観点から	2018年1月	日本障害フォーラム (JDF) 全国フォーラム	- -
20	やまだ ようこ	Time and the life cycle: Visual narratives and cultural representations	2017年08月 21日	ISTP 2017 Conference	-
21	大谷 いづみ	「生きるに値しない生命」殺害の医療化と規範化—ナチスT4政策と相模原障害者殺傷事件を下支えした	2017年11月 11日	第36回日本医学哲学・倫理学会研究大会 ワークショップ「「正常さ」と「異常さ」の境界—「不幸な生」に関する倫理的背景の考察—」於：帝京科学大学北千住校舎	-

		もの			
22	大谷 いづみ	その他の社会的活動 「安楽死・尊厳死論の系譜と相模原障害者殺傷事件」	2017年7月7日	2017年度 京都自由大学 7月期「相模原障害者殺傷事件」於：京都社会文化センター	-
23	大谷 いづみ	その他の社会的活動 「相模原障害者殺傷事件から1年 事件を生んだ「障害者はいらない」という考え方(優生思想)」を考える——安楽死・尊厳死論の系譜と相模原障害者殺傷事件」	2017年8月1日	2017年度 JCIL 居場所づくり勉強会 第47弾「相模原障害者殺傷事件から1年 事件を生んだ「障害者はいらない」という考え方(優生思想)」を考える」於：日本自立生活センターセンター事務所(油小路)	-
24	大谷 いづみ	その他の社会的活動 「優生思想と生命倫理——安楽死・尊厳死論の系譜と相模原障害者殺傷事件」	2017年9月20日	社会福祉法人 京都国際社会福祉協会の 2017年度 研修講座「事例から学ぶソーシャルワーク」、於：京都国際社会福祉センター	-
25	櫻井 浩子	薬学教育におけるジェネリックスキル育成の課題——東京薬科大学でのPROG測定および育成について	2017年9月	第2回日本薬学教育学会大会	益山光一
26	櫻井 浩子	End-of-life for infants born with congenital diseases in Japan	2017年5月	The 13th International Conference on Clinical Ethics Consultation	-
27	小西 真理子	共依存者は不幸なのか？	2017年4月	南山大学社会倫理研究所 2017年度第1回懇話会	-
28	小西 真理子	今、あらためて「共依存」を考える	2017年5月	2017年度第2回依存問題基礎講座	-
29	小西 真理子	共依存を取り巻く現代社会の諸問題——ケアの倫理の可能性	2017年9月	東京大学上廣死生学・応用倫理講座：臨床死生学・倫理学研究会	-
30	小西 真理子	ケアの倫理における心理的なケア/依存——病理との関係をめぐって	2017年10月	第68回日本倫理学会主題別討議「ケアの倫理——その変遷と展開」	-
31	Miki Nishida	Care Support and Incurable Diseases: The Movement	2017/10/26	East Asia Disability Studies Forum 2017	Yui HASEGAWA, Hideyuki MASUDA, Naoyuki KIRIHARA
32	Miki Nishida	Guaranteed Assistance and Intractable Diseases: Family Assistance Edition	2017/10/26	East Asia Disability Studies Forum 2017	Yui HASEGAWA, Hideyuki MASUDA, Naoyuki KIRIHARA
33	Miki Nishida	Guaranteed Assistance and Intractable Diseases: Professional	2017/10/26	East Asia Disability Studies Forum 2017	Yui HASEGAWA, Hideyuki MASUDA, Naoyuki KIRIHARA

		Edition			
34	Miki Nishida	Achieving Independent Lives for People with ALS Connected to Artificial Respirators through the Process of Accepting Care from Non-Family Members	2017/12/08	The 28th International Symposium on ALS/MND	Yui HASEGAWA, Hideyuki MASUDA, Naoyuki KIRIHARA, Yumiko KAWAGUCHI, Yumiko, Shinya TATEIWA
35	村本 邦子	性暴力支援に求められること	2017年10月27日	平成29年度全国婦人相談員・心理判定員研究協議会分科会	-
36	村本 邦子	災害と女性	2017年10月26日	平成29年度全国婦人相談員・心理判定員研究協議会貴重講演	-
37	村本 邦子	Post Disaster Community Support with Family Manga Exhibition as a Tool for Intervention and Outreach: Reflection on the Past Five years from a Narrative Perspective	2017年5月4日	International Conference on Community Psychology and Mental health	-
38	村本 邦子	パネルディスカッション「研究者とワーク・ライフ・バランスの今後」(司会)	2017年12月10日	研究者のライフ・イベントとワーク・ライフ・バランス	-
39	松原 洋子	引揚援護医療における人工妊娠中絶の検討	2017年6月4日	日本科学史学会第64回年会	-
40	松原 洋子	方法論としての科学史を生かした大学院教育——学際的大学院における院生指導の実践から	2017年6月3日	日本科学史学会第64回年会	-
41	中村 正	アディクションからの回復支援のネットワークの可能性——司法と福祉、理論と実践は、分かりあえるのか?	2017年9月1日	第2回犯罪学合同大会・公開シンポジウム	-
42	中村 正	JAPANESE STYLE OF THERAPEUTIC JURISPRUDENCE II:HOW CAN WE PUT THE NEW WINE INTO THE OLD BOTTLE?: Some Significant Points of Considering Japanese Experience of Therapeutic Jurisprudence for	2017年7月12日	International Congress on Law and Mental Health	-

		Developing Theory and Practice in Diversity International Academy of Law and Mental Health, XXVth			
43	富永 京子	社会運動ツーリズム——「個人化」時代における抵抗と連帯の旅	2017年11月4日	第90回日本社会学会大会	-
44	富永 京子	From Counterculture to Subculture: The Study of Social Movement in Japan after the 3.11 Disaster	2017年11月1日	Monash Asia Institute (MAI) and Japanese Studies Centre (JSC) Special Public Seminar	-
45	富永 京子	Protest Tourism: Solidarity and Protest in the Era of Individualization in East Asia	2017年10月31日	OTHER ASIANS, ASIA' S OTHERING - Inclusionary Utopias, Exclusionary Politics	-
46	富永 京子	From Investment to Consumption: Contemporary Consumer Movements by Youth	2017年9月15日	The 2nd Japan-Korea CSR Workshop: Collaboration among the Government, Business, and Civil Society	-
47	富永 京子	グローバル化時代の社会運動——サミット・プロテストからオキュパイ・ムーブメントへ	2017年8月10日	民主主義理論研究会	-
48	富永 京子	社会運動としてのツーリズム——カウンターカルチャーからサブカルチャーへ	2017年8月2日	北海道大学メディア・ツーリズム研究センター講演会	-
49	富永 京子	Consumer Movement in Fluidarity and Individuality: Comparing Individual Practices of Consumer Movement	2017年6月26日	6th French Network for Asian Studies International Conference	-
50	富永 京子	ポリティカル・ツーリズムとしての社会運動	2017年6月4日	関東社会学会第65回大会	-
51	鎮目 真人	年金制度の縮減改革における政治的言説、新しい政策アイデアと改革類型	2017年9月17日	第13回社会保障国際論壇	-
52	鎮目 真人	New Policy Idea, Social Discourse and Unpopular Pension Reforms in Japan	2017年8月3日	14th East Asian Social Policy conference	-

53	角崎 洋平	低所得者支援としての貸付—世帯更生資金はだれを包摂してきたのか	2017年10月22日	日本社会福祉学会第65回大会	-
54	角崎 洋平	「福祉的貸付と相談員の役割」	2017年10月19日	日本生活協同組合連合会 生活相談・貸付事業研修・交流会	-
55	サトウ タツヤ	心理学における共感研究の復興—アメリカにおける心理学, 文化人類学との関連	2017年9月22日	日本心理学会第81回大会	-
56	サトウ タツヤ	病名と症例からみるアルコール依存症に対するイメージ	2017年9月21日	日本心理学会第81回大会	-
57	サトウ タツヤ	チュートリアル TEA (複線径路等至性アプローチ)	2017年9月20日	日本心理学会第81回大会	-
58	サトウ タツヤ	TEM で広がる社会実装	2017年9月10日	日本質的心理学会第14回大会	-
59	サトウ タツヤ	「TEM図の描き合い」による「転機」経験の反省的考察	2017年9月10日	日本質的心理学会第14回大会	-
60	サトウ タツヤ	当事者と倫理と研究者：医療分野における質的研究の貢献	2017年9月9日	日本質的心理学会第14回大会	-
61	サトウ タツヤ	不登校者の身体表現と教師による呼応—不登校経験者受け入れ校におけるフィールドワーク	2017年9月9日	日本質的心理学会第14回大会	-
62	サトウ タツヤ	許容できない事象に対する共感の構造—コフト理論からみた「死にたい」に対する考察	2017年9月9日	日本質的心理学会第14回大会	-
63	サトウ タツヤ	許容できない事象に対する共感の構造—ロジャーズの共感理論からみた「死にたい」に対する共感の困難さ—	2017年9月8日	日本パーソナリティ心理学会第26回大会	-
64	サトウ タツヤ	進学校教師の職業アイデンティティをめぐる語り—所属組織における葛藤と役割の模索—	2017年9月8日	日本パーソナリティ心理学会第26回大会	-
65	サトウ タツヤ	New perspective for cultural psychology: Object, Body and Self	2017年8月25日	The 17th Biennial Conference of The International Society of Theoretical Psychology	-
66	サトウ タツヤ	The lay theory of medical therapy and psychotherapy for	2017年7月14日	15th European Congress of Psychology (ECP)	-

		treatment of depression in Japanese university students			
67	サトウ タツヤ	How business philosophy affects creative activities: The Inamori management case.	2017年7月12日	15th European Congress of Psychology (ECP)	-
68	小川 さやか	ケータイは私のオフィス—香港・中国のタンザニア人たちのビジネスとコミュニティ	2017年5月21日	日本アフリカ学会第54回学術大会	-
69	小川 さやか	The Logic of "Open Reciprocity" of the Tanzanian Union in Hong Kong and China	2017年5月2日	International Union of Anthropology and Ethnology	-
70	渡辺 克典 伊東 香純	障害のある女性の生きづらさ	2017年12月10日	公開シンポジウム「研究者のライフ・イベントとワーク・ライフ・バランス」	土屋葉・河口尚子・後藤悠里・時岡新・伊藤葉子・伊藤綾香
71	渡辺 克典	障害のある女性が経験する「生きづらさ」と「交差性」——精神に障害のある女性の生活史に着目して	2017年11月4日	第90回日本社会学会・大会	-
72	渡辺 克典	障害女性研究における交差性アプローチ	2017年11月4日	第90回日本社会学会・大会	-
73	渡辺 克典	障害のある女性の生きづらさ(1)——医療・介助場面に焦点化して	2017年10月28日	障害学会第14回大会	-
74	渡辺 克典	Representation of Stuttering: Speech Disfluency as Consumption Culture	2017年10月25日	the 8th East Asia Disability Studies Forum	-
75	やまだ ようこ	Time and the life cycle: Visual narratives and cultural representations	2017年8月21日	The 17th Biennial Conference of the International Society for Theoretical Psychology. Invited Address. Rikyo University, Tokyo	-
76	やまだ ようこ	治癒せざるものの治療のために—病い経験を捉える新しい概念生成に向けて	2017年9月9日	首都大学東京 荒川キャンパス	坂井志織・鈴木智之・細野知子・菊池麻由
77	やまだ ようこ	ライフストーリーの映像化—ビジュアル・ナラティブとしてのメモリアル・アニメーションの可能性	2017年9月10日	首都大学東京 荒川キャンパス	家島明彦・横山隆俊・長谷川泰二・赤井孝美
78	やまだようこ	ビジュアル・ナラティブ	2017年9月20日	日本心理学会 第81回大会 久留米	-

	こ	の理論と方法	日	シティプラザ	
79	やまだようこ	沖縄の「子育て・教育への共同的営み」を形作る歴史・文化・人々ー「子育て・教育の共同的営み」としてのアロマザリングとPTA	2017年10月7日	日本教育心理学会第59回総会 名古屋国際会議場10	竹尾和子 神野 潔 根ヶ山光一 津波古澄子
80	安田 裕子	「TEMで広がる社会実装」の可能性	2017年9月10日	日本質的心理学会第14回大会	-
81	安田 裕子	看護学にTEM/TEA(複線径路等至性モデリング/アプローチ)はどう貢献できるか?	2017年8月17日	日本看護学教育学会第27回学術集会	-
82	伊東 香純	障害のある女性の生きづらさ	2017年12月10日	2017年度立命館大学人間科学研究所年次総会 立命館大学OICキャンパス	
83	伊東 香純	障害の心理感情的な側面の社会モデル構築の試みの批判的検討	2017年10月28-29日	障害学会第14回大会	-
84	伊東 香純	Grass-Roots Movements of Persons with Psychosocial Disabilities in Asia: Solidarity between Those Who Do and Those Who Do not Have Experience in the Modern Western Mental Health System	2017年10月24-26日	障害学国際セミナー2017	-
85	伊藤 香純	An Introduction of My Research on Global Grass-Roots Movements of Persons with Psychosocial Disabilities	2017年6月20日	障害法サマースクール	-
86	高 雅郁	自我倡導者へー台湾の例	2017年10月26日	障害学国際セミナー 2017 「ポストモダンと障害	-
87	長谷川 唯 桐原 尚之 西田 美紀 増田 英明	Care Support and Incurable Diseases: The Movement	2017/10/26	East Asia Disability Studies Forum 2017	
88	長谷川 唯 桐原 尚之 西田 美紀 増田 英明	Guaranteed Assistance and Intractable Diseases: Family Assistance Edition	2017/10/26	East Asia Disability Studies Forum 2017	

89	長谷川 唯	Guaranteed Assistance and Intractable Diseases: Professional Edition	2017/10/26	East Asia Disability Studies Forum 2017	
90	長谷川 唯 桐原 尚之	医療専門職の専門性を問い返す—医療への期待と不安の繰り返いで生じる生存のゆらぎ	2017年10月28日	障害学学会14回大会	
91	長谷川 唯 桐原 尚之	医療保護入院と患者の権利擁護—強制のための権利擁護論	2017年11月3日	第60回病院・地域精神医学会大会	
92	桐原 尚之	刑事責任能力の社会モデルと障害者権利条約	2017年10月26日	障害学国際セミナー 2017 「ポストモダンと障害」	-
93	中倉 智徳	The Reception of Durkheimian Sociology in East Asia	2017年9月	「古典から現代へ——社会学のディシプリン再生はいかにして可能か」 (基盤研究(B)社会学のディシプリン再生はいかにして可能か(15H03409)、立命館大学生存学研究センター、デュルケーム/デュルケーム学派研究会主催)	-
94	孫 美幸	福祉的視点を取り入れた多文化共生教育 学びの環境が厳しい子どもたちとともに	2017年6月	日本国際理解教育学会第27回研究大会(筑波大学)	-
95	孫 美幸	ハワイ先住民の知恵を体感する学び ハワイ島プナ地区リトリート施設のプログラム内容考察を通して	2017年9月	日本社会教育学会第64回研究大会(埼玉大学)	-
96	孫 美幸	日本と韓国の民話の中の「多文化共生」 語りの伝統の中の知恵	2017年11月	日本と韓国の民話の中の「多文化共生」 語りの伝統の中の知恵	-
97	孫 美幸	アジアの文化的重層性をもとした多文化共生教育の再構築	2017年12月	アジアの文化的重層性をもとした多文化共生教育の再構築	-
98	谷村 ひとみ	障害のある人の母親という経験—障害のある人の(母)親を対象にしたアンケート分析から 発表担当「夫との関係：『してくれない夫』からの二次的な被害の継続	2017年9月	第50回全国肢体不自由者父母の会連合会全国大会(於：京都テルサ)	上野千鶴子・鮫島輝美・畑野相子・宇治和子・橋野佳子・三輪佳子・一宮茂子・荻原三義・窪田好恵・梅下節瑠・中西京子・茶園敏美・藤井美恵子・桶河華代・栄セツコ
99	浦田 悠	ビジュアル・ナラティブの理論と方法	2017年9月20日	日本心理学会第81回公募シンポジウム(久留米シティプラザ)	近藤 恵・川島大輔・多田羅竜平・辻本 耐・八木俊介
100	浦田 悠	人生の意味	2017年7月23日	北海道大学哲学会シンポジウム	山田健二・蔵田伸雄・森岡正博

101	能勢 桂介	MARCH/地方国立大出身の 独身中年男性たち (1) ——バブル前後世代のそ の後——	2017年11月4 日	第90回 日本社会学会	-
102	田邊 健太 郎	条件付き連鎖主義の意義 と課題——ジェロルド・ レヴィンソン『瞬間の中 の音楽』の批判的検討——	2017年10月7 日	第68回美学学会全国大会	-
103	田邊 健太 郎	GTMは分析者の何をどの ように記述したものだろう か——内観主義と知覚 主義の対立について——	2017年10月 29日	日本音楽学会第68回全国大会	-
104	Kentaro TANABE	Comments on Aaron Meskin' s "Videogames as Self-Involving Interactive Fictions"	2017年8月9 日	Workshop: Videogames and Creativity	-
105	高木 美歩	「発達障害」ってなんだ ろう—社会的に考える—	2017年5月	第43回日本保健医療社会学会大会	-
106	高木 美歩	「カサンドラ症候群」概 念にみる自閉症スペクト ラム症候群概念の広がり とパートナーシップの医 療化	2017年10月	障害学会 第14回大会	-
107	高木 美歩	Medicalization of partner relationship Case of Cassandra syndrome	2017年11月	国際ワークショップ ”Challenges of Illness Narratives”	-
108	山本 由美 子	軍事研究と大学の近接性 2016年夏の大学院生の 認識を手がかりに	2017年6月	第64回日本科学史学会 公募シンポ ジウム 「軍事研究と学術体制」	-
109	山本 由美 子	フランスの科学研究にお けるジェンダーの非対称 性 Dr. Marthe Gautier の盗まれた功績と21トリ ソミーの発見	2017年10月	2017年度日仏社会学会大会	-
110	梁 陽日	「危機の時代に抗する対 人援助のフロンティア」	2017年11月4 日	対人援助学会第9回年次大会 理事 会企画 基調報告	-
111	梁 陽日	「他者理解・自己理解の ための社会調査—調査 者・被調査者のはざまを 生きる」	2018年1月23 日	滋賀県立大学人間文化	-
112	梁 陽日	「生徒学生の自尊感情を 高めエンパワメントする ために」	2017年9月13 日	セミナー	-

113	今里 基	ニューカマーに見る日本社会への同化と他社化に関する研究—韓国系ニューカマー1.5世と2世の事例から—	-	日本社会学会	-
114	橋本 雄太	言友会におけるユニバーサルとダイバーシティ	2017年8月20日	自主シンポジウム4「言友会をダイバーシティという観点から読み解く」 第5回日本吃音・流暢性障害学会第5回大会	-
115	高木 美歩	「発達障害」って何だろう—社会的に考える—	2017年5月21日	日本保健医療社会学会	-
116	高木 美歩	「カサンドラ症候群」概念にみる自閉症スペクトラム症候群の概念の広がり とパートナーシップの医療化	2017年10月28-29日	障害学会	-

4. 主催したシンポジウム・研究会等					
No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1	『正義・平等・責任』から／とともに生存をめぐる制度・政策についてかんがえる	立命館大学朱雀キャンパス	2017年9月9日	約30名	-
2	障害学国際セミナー2017	順天郷大学（韓国アサン市）	2017年10月24日—26日	約150名	韓国障害学フォーラム
3	国際シンポジウム「古典から現代へ—社会学のディシプリン再生はいかにして可能か—」	公益財団法人 大学コンソーシアム 京都 キャンパス ブラザ京都	2017年9月21日	約60名	-
4	朝鮮学校が育むもの——『60万回のトライ』上映・講演会	立命館大学 衣笠キャンパス	2017年10月28日	約100名	立命館大学コリア研究センター
5	フェミニズム研究会 第9回公開研究会（2017年度・第1回）「男らしさ」の所在——『非モテの品格』著者・杉田俊介さんをお迎えして	立命館大学朱雀キャンパス	2017年11月25日	約40名	-
6	立命館大学生存学研究センター 現代社会エスノグラフィ研究会 2017年度（2018年）第1回公開研究会（通算第14回）	京都市地域・多文化交流ネットワークサロン	2018年1月28日	約60名	-

5. その他研究活動（報道発表や講演会等）				
No.	氏名	研究業績名	発表場所等	研究期間
1	立岩 真也	ベーシックインカムと人間の生存	労働と暮らしのセミナー スタジオオシチズン 大阪	2017年4月8日
2	立岩 真也	精神病院体制の終わり、へ	全国精神障害者地域生活支援協議会結成20周年記念大会 横浜市	2017年7月21日

3	立岩 真也	安楽死尊厳死について	MX テレビ	2017年8月12日
4	立岩 真也	長生きは幸せか 社会学者、立命館大学教授 立岩真也さん	中日新聞・東京新聞	2017年9月9日
5	立岩 真也	兵庫県立こども病院 障害者不妊手術称賛?団体など抗議文	毎日新聞	2017年10月31日 (オンライン版) 11月1日 (紙版)
6	立岩 真也	生の線引きと現代社会	大阪府立男女共同参画・青少年センター	2017年11月17日
7	立岩 真也 岸 政彦	意思と介入	立命館大学	2017年11月18日
8	立岩 真也	コメント	北海道新聞	2018年2月19日
9	立岩 真也	青い芝の会の思想と出会って	郡山市労働福祉会館	2018年3月17日
10	長瀬 修	日東電工、事故で重い障害の社員に「復職不可」 障害者雇用促進法に関するコメント https://digital.asahi.com/articles/ASK8J2BZCK8JUBQU001.html	朝日新聞	2017年8月16日
11	小西 真理子	「今週の本棚」	毎日新聞	2017年11月
12	松原 洋子	優生学と人間社会—生命科学の世紀はどこに向かうのか	ゲノム問題検討会題5回シンポジウム「現代生命科学と「新しい優生学」—人間を作り変える医療はどこへ向かうのか?」 日比谷図書文化館	2018年2月18日
13	松原 洋子	本の電子化とアクセシビリティ	国際ワークショップ「障害学生支援と情報アクセシビリティ」 立命館大学 衣笠キャンパス	2008年3月2日
14	村本 邦子	中日子どもウィークリー「親の時間子の時間」		2018年1月13日
15	村本 邦子	NHK おはよう日本 けさのクローズアップ「子どもへの期待 なぜ虐待に?」取材協力・出演	NHK	2017年12月20日
16	齋藤 龍一郎	相模原事件関連ニュースまとめ	生存学ウェブサイト	2017年4月1日 - 現在
17	齋藤 龍一郎	アフリカ関連情報データベース	生存学ウェブサイト	2017年4月1日 - 現在
18	松原 洋子	「大学図書館のアクセシビリティ—プリント・ディスアビリティの学生の支援を中心に」	2017年度私立大学図書館協会西地区部会東海地区協議会研究会、東海学園大学	2017年11月10日
19	松原 洋子	「論点：相模原殺傷1年 自分は「正義」に疑問符を」	毎日新聞 東京朝刊 11頁	2017年7月28日
20	松原 洋子	「優生学の成り立ちと展開」	平成29年度滋賀県障害児者と父母の会連合会総会・研修会講演、草津市・草津市立民交流プラザ	2017年5月13日
21	富永 京子	私が投票する理由	朝日新聞 朝刊	2017年10月22日
22	富永 京子	<1強の行方>2 社会運動 首相には脅威	北海道新聞 朝刊	2017年8月16日
23	富永 京子	学びなおしの5冊 <社会運動>	メールマガジン「αシノドス」 225号	2017年8月1日
24	富永 京子	「若者の社会運動とサブカルチャー」 富永京子×鈴木謙介×	ジュンク堂書店大阪本店	2017年6月19日

		阿部真大		
25	富永 京子	日本における若者の社会運動とその「社会運動サブカルチャー」について	ナサン・マギー読書会	2017年6月16日
26	富永 京子	ハッピー・バースデー フロム ソーシャル・サイエンス	『ユリイカ』2017年6月号	2017年5月24日
27	富永 京子	若者の政治参加と社会運動」シノドス国際社会動向研究所シンポジウム01 富永京子×橋本努×仁平典宏	NagatachoGRID 地下1階「SPACE0」（於東京都千代田区）	2017年5月20日
28	サトウ タツヤ	日本心理学会 高校生のための心理学講	大阪大学	2017年12月17日
29	サトウ タツヤ	質的研究とは何か	日本心理学会若手の会 異分野間協働懇話会	2017年3月7日
30	渡辺 克典	社会構成主義概論講義	オープンダイアログ/リフレクティブ研究会	2017年12月9日
31	渡辺 克典	障害者運動とは何か——生存学という研究/実践	立命館大学ライスボールセミナー	2017年5月23日
32	やまだ ようこ	もの語りと生成力-ビジュアル・ナラティブ	ナレッジ・フォーラム	2017年1月15日
33	やまだ ようこ	喪失と巡礼—宮澤賢治と村上春樹のナラティブ	第57回身心変容技法研究会 ナラティブと負の感情処理 上智大学大阪サテライト	2017年5月15日
34	やまだ ようこ	もの語り心動かす—ビジュアル・ナラティブを活かす	ホンダ研修会 野沢温泉	2017年7月11日
35	やまだ ようこ	病いの語りと医療	鳥取大学医学部	2017年10月3日
36	やまだ ようこ	人生をもの語る—負の体験の語り直しとキャリア発達	Tuku-場フォーラム 筑波大学東京キャンパス	2017年11月14日
37	やまだ ようこ	ビジュアル・ナラティブとケア	九州大学大学院医学研究院	2017年11月22日
38	やまだ ようこ	もの語りと生成力-ビジュアル・ナラティブ	ナレッジ・フォーラム 如水会館	2018年1月14日
39	やまだ ようこ	「ないけど、ある」が楽しむ鍵	京都新聞	2018年2月14日
40	大谷 いづみ	社会に広がる「迷惑視」意識相模原障害者殺傷事件 植松聖被告起訴にあたって	京都新聞	2017年2月25日
41	Paul Dumouchel	Fenelon : Les aventures de Telemaques	Universite du Quebec a Montreal Montreal, Canada	2017年3月
42	Paul Dumouchel	Le terrorisme ou la fin de la guerre contenue par le politique	Universite de Paris II Pantheon Assas, Paris, France	
43	Paul Dumouchel	Robotique et philosophie de l' esprit	Universit� de Luxembourg, Luxembourg	2017年4月
44	Paul Dumouchel	Vivre avec les robots	Les Rencontres philosophiques de Monaco, Monaco	2017年6月
45	Paul Dumouchel	Au-del� du sacrifice inutile : R�n� Girard et Joseph Wresenski	Ce que la mis�re nous donne � penser, Centre Culturel International de Cerisy-la-salle, France	2017年6月

46	Paul Dumouchel	Weird objects that are not quite there... Plane walkers, crossovers and analytic agents	Tokyo Agricultural and Technical University, Tokyo, Japan	2017年6月
47	安田 裕子	グループ演習「円卓の手法を用いて」(実務家研修)	立命館大学大阪いばらきキャンパス C272・271 ラーニングスタジオ、多専門連携による司法面接の実施を促進する研修プログラムの開発と実装(研究代表者:仲真紀子)主催 「司法面接と多機関連携検討会—心身のケアと事実確認の連携」	2017年7月29日-2017年7月30日
48	安田 裕子	メンタルヘルス研修—心身ともに健やかに働くために	茨木市・立命館大学、2017年度新人研修	2017年4月14日
49	安田 裕子	キャリアをとらえる心理学—生涯発達における危機と回復の観点から	兵庫県立星陵高等学校 模擬講義	2017年11月
50	安田 裕子	ビデオ教材の撮影「PTSDと被害の心理」「被害者支援と支援者支援」	JMOOC 講座 立命館大学「法心理・司法臨床—法学と心理学の学融」	2017年10月
51	安田 裕子	メンタルヘルス研修—心身ともに健やかに働くために	2017年度新人研修(中途採用)	2017年10月
52	安田 裕子	キャリアをとらえる心理学—生涯発達における危機と回復の観点から	大阪府立泉陽高等学校 模擬講義	2017年10月
53	安田 裕子	心理職の道を目指す人へ—大学院進学を考える、河合塾KALS 2017秋 心理系大学院入試対策講座[新大阪校] 次のキャリアへ—ゼロから目指す心理職への道	大阪市・河合塾KALS 新大阪校	2017年8月
54	安田 裕子	メンタルヘルス研修—心身ともに健やかに働くために	2017年度新人研修	2017年4月
55	孫 美幸	教員と学生が協働の学びを創り、社会発信する	生産と技術第69巻第3号	2017年7月
56	一宮 茂子	講演(2017年度比較ジェンダー論第13回)	立命館大学産業社会学部衣笠キャンパス	2017年6月30日
57	一宮 茂子	講演(人間・生命・倫理)	滋賀県立大学人間看護学部	2017年12月25日
58	西沢 いづみ	看護中間管理者研修I 講師(第一回)	京都私立病院協会	2017年4月27日
59	長谷川 唯	医療保護入院と患者の権利擁護—強制のための権利擁護論	第60回日本病院・地域精神医学会 まつもと市民芸術館	2017年11月3日
60	長谷川 唯	精神保健福祉法の構造の解体に向けて	第60回日本病院・地域精神医学会シンポジウム講演 まつもと市民芸術館	2017年11月3日
61	長谷川 唯	連載	たこのき通信	年間
62	ワフユデ イ(小宅)理沙	「ドクター理沙とセラピスト貴子〜真実の扉」	ラジオ: fmGIG 性暴力・DV・児童虐待・についての研究の紹介 http://www.fm-gig.net/top.html	2017年9月 毎週月曜
63	桐原 尚之	支援に隠れた監視の強化—精神保健福祉法「改正」を阻止しよう!	救援 p.3	2017年6月10日

64	桐原 尚之	精神保健福祉法改正法案反対運動・参議院国会行動の報告	心神喪失者等医療観察法（予防拘束）を許すな!ネットワークニュース p.4-5	2017年6月23日
65	桐原 尚之	精神保健福祉法改正法案への反対運動を通して一人を入れたい、警察を入れる、監視を強める法案	ヒューマンライツ p.13-19	2017年8月10日
66	桐原 尚之	精神保健福祉法改正法案の廃案と今後の活動について	心神喪失者等医療観察法（予防拘束）を許すな!ネットワークニュース p.5-6	2017年10月21日
67	桐原 尚之	次国会精神保健福祉法闘争に向けて	心神喪失者等医療観察法（予防拘束）を許すな!ネットワークニュース p.3-4	2018年1月20日
68	桐原 尚之	精神障害者のけんちの実現—アジア太平洋地域障害者の10年中間年をむかえて	ノーマライゼーション—障害者の福祉 p.28	2018年3月1日

6. 受賞学術賞

No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月
1	長谷川 唯	日本病院・地域精神医学会	日本病院・地域精神医学会若手会員実践活動研究費	精神障害者の権利擁護の仕組みの構築に向けた研究	2017年11月3日
2	山本 由美子	日仏社会学会	2017年度日仏社会学会奨励賞（論文の部）	「フランスにおける子どもの条件と医療・倫理・社会——『生命のない子ども〈enfant sans vie〉』たち」	日仏社会学会

7. 科学研究費助成事業

No.	氏名	研究課題	研究種目	開始年月	終了年月	役割
1	立岩 真也	病者障害者運動史研究——生の現在までを辿り未来を構想する	基盤研究(B)	2017年4月	2020年3月	代表
2		障害女性をめぐる差別構造への「交差性」概念を用いたアプローチ	基盤研究(C)	2016年4月	2020年3月	研究分担
3	大谷 いづみ	生命倫理学・死生学における安楽死・尊厳死論の変容とキリスト教の歴史的社会的影響	基盤研究(C)	2015年4月	2018年3月	代表
4	小川 さやか	アジア—アフリカ諸国間の模造品取引に関する文化人類学的研究—携帯電話を事例に	若手研究(A)	2016年4月	2020年3月	代表
5	桜井 政成	カナダのNPOによる貧困地域支援にみる社会的企業化と市民参加促進の架橋モデル	基盤研究(C)	2015年4月	2018年3月	代表
6	サトウ タツヤ	グローバリゼーション時代における新しい心理学史の叙述	挑戦的萌芽研究	2015年4月	2018年3月	代表
7	長瀬 修	障害者の権利条約の実施過程の研究	基盤研究(C)	2013年4月	2018年3月	代表
8	中村 正	親密な関係における暴力加害者の特徴と暴力から離脱する過程の臨床社会学的研究	基盤研究(C)	2015年4月	2018年3月	代表

9	西 成彦	比較植民地文学研究の新展開—「語圏」概念の有効性の検証	基盤研究(C)	2015年4月	2018年3月	代表
10	富永 京子	グローバルな相互理解の場としての国際政治活動プロセスに関する実証研究	若手研究(B)	2015年4月	2018年3月	代表
11	松原 洋子	戦後日本の人工妊娠中絶の制度史：医療・人口・地政学	基盤研究(C)	2016年4月	2019年3月	代表
12	村本 邦子	レジリエンスを引き出す災害後のコミュニティ支援モデルの構築	基盤研究(C)	2016年4月	2019年3月	代表
13	美馬 達哉	直流刺激と歩行運動のハイブリッド型リハによる下肢機能再建とその脳内機構の解明	基盤研究(B)	2015年4月	2019年3月	代表
14	美馬 達哉	発振操作による動的ネットワークの再組織化	新学術領域研究	2015年6月	2020年3月	代表
15	安田 裕子	人の生の潜在性と可能性に接近するTEA—文化をとらえ、分岐をつくる	基盤研究(C)	2016年4月	2019年3月	代表
16	やまだ ようこ	「かわいい」とは何か—ビジュアル・ナラティブによる多文化心理学の異種むすび法	挑戦的萌芽研究	2016年4月	2019年3月	代表
17	櫻井 悟史	死刑の歴史社会学—刑罰史研究の新たな視座	若手研究(B)	2015年4月	2018年3月	代表
18	岡野 英之	武力紛争の社会的要因に関する研究—シエラレオネ内戦後の首長層と都市若年層—	若手研究(B)	2016年4月	2020年3月	代表
19	望月 茂徳	共生型高付加価値社会におけるインクルーシブなインタラクティブメディアの開発	基盤研究C	2017年4月	2020年3月	代表
20	富永 京子	メディア文化史における「1970年代」の戦後史位置の再考	基盤研究B	2017年4月	2022年3月	研究分担者
21	井上 彰	カタストロフィの分配的正義論	基盤研究(C)	2015年4月	2018年3月	代表

8. 競争的資金等(科研費を除く)						
No.	氏名	研究課題	資金制度・研究費名	採択年月	終了年月	役割
1	立岩 真也	トランスジェンダーとして生きるコスト—「セーフティネットとしての学問」という観点から	立命館大学研究高度化推進制度	2017年4月	2018年3月	代表
2	渡辺 克典	発話の障害と治療・矯正の制度編成に関する歴史研究	研究推進プログラム 科研費獲得推進型	2017年10月	2018年3月	代表
3	Paul Dumouchel	Sensory anthropology, affective coordination and artificial empathy	研究推進プログラム 科研費獲得推進型	2017年4月	2018年3月	代表
4	千葉 雅也	ポスト構造主義以後における日本現代思想の再解釈とその国際的共有	学外研究制度	2017年4月	2018年3月	-
5	サトウ タツヤ	ナラティブアプローチによる「社会生活・人間関係」ならびに「対人援助」の問題解決	研究推進プログラム 科研費獲得推進型	2017年4月	2018年3月	代表

6	サトウ タツヤ	TEM（複線径路等至性モデリング）による「QOLを脅かす状況からの回復」の研究	研究推進プログラム 科研費獲得 推進型	2017年4月	2018年3月	代表
7	立岩 真也	トランスジェンダーとして生きるコスト—「セーフティネットとしての学問」という観点から	立命館大学研究高度化推進制度	2017年4月	2018年3月	代表
8	西 成彦	戦後日本語文学と解放後韓国文学における脱植民地主義の比較研究	研究高度化推進制度専門研究員プログラム	2017年4月	2018年3月	代表
9	伊東 香純	精神障害をもつ本人は非自発的入院の制度を求めているか—アジアの精神障害者の実践をもとに	日本病院・地域精神医学会若手会員 実践活動研究費	2017年4月	2019年3月	-
10	伊東 香純	-	立命館大学大学院国際的研究活動促進研究費	2017年4月	2018年3月	-
11	長瀬修	東アジアにおける障害者の自立生活と家族	研究成果国際発信プログラム	2017年4月	2018年3月	代表

9. 知的財産権								
No.	氏名	名称	出願人区分	発明人区分	出願番号	公開番号	登録（特許）番号	国
1								